

2020年1月9日

各位

2020年 新年賀詞交歓会 大田社長挨拶(要旨)

当社(社長:大田 勝幸)は1月8日(水)、グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)にて、特約店や物流協力会社の方々、約1,300名をお招きして、2020年新年賀詞交歓会を開催いたしました。当社社長 大田 勝幸の挨拶(要旨)を下記のとおりお知らせいたします。

記

全国の特約店の皆様、物流協力会社の皆様、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、JXTGエネルギーを代表して、新年のご挨拶を申し上げます。

1. 2019年を振り返って

昨年は、2018年と同様、大雨や台風などの自然災害の多い年でした。被害に遭われた特約店・SSの皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

こうした自然災害は、毎年、例外なく発生するものとして心構えを持ち続けることが必要だと痛感しており、当社は、今後も石油製品の安定供給に向けて万全の体制を構築していく所存です。

2019年を総括すると、「経営統合の総仕上げの年」であり、「次世代に向けた施策に取り組んだ年」でした。特に、統合の総仕上げとして、ENEOSへのブランド統一完了、「EneKey」の発行開始、「EneJet」の旧系列を超えた展開等、2017年の経営統合から2年3か月で、ひとつのSSネットワークを作り上げることができました。特約店の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

2. グループ運営体制・商号変更について

意思決定と業務執行を迅速にし、次世代に向けた取り組みを更に強化することを目的に、2020年6月をもってグループ運営体制を変更するとともに、当社の商号を『ENEOS株式会社』に変更することを発表しました。

ENEOSは、これまで特約店・系列SSの皆様とともに育んできたブランドです。そのENEOSを当社が社名として名乗らせていただくことにより、真のパートナーシップで結ばれた「チームENEOS」として、ブランドを更に大きく輝かしいものに磨き上げていきたいと考えています。

今般の商号変更には、こうした当社の想いと決意が込められているとご理解いただきたいと思います。

3. SSビジネスの将来像

SSの生活プラットフォーム化は、モビリティ事業とライフサポート事業の2つを事業領域として検討中です。

モビリティ事業について、広島県で実証中の「デリバリー型カーシェアリングサービス」は、開始から3か月経過しましたが、順調に利用者が拡大しています。今後は、他のモビリティサービスにも進出し、かつ、既存のSSビジネスと組み合わせることで、ENEOSならではの高い利便性と競争力のあるサービスを作り上げたいと考えています。

ライフサポート事業は、SSの強みである「地域密着性」と「SSスタッフのおもてなしの力」を活かせる事業であると認識しています。現在実証中のコインランドリー事業だけでなく、更なる発展形や他サービスへの拡大により、『ENEOS=エネルギー』というブランドイメージに加え、『ENEOS=生活サポート事業体』というブランドイメージも構築させたいと考えています。

モビリティ事業とライフサポート事業を特約店の皆様とともに展開していくことにより、ENEOSを「クルマと人々の生活を総合的に支援する生活プラットフォームブランド」として再定義し、新しい価値を創造していきたいと考えています。

4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて

いよいよ今年の夏には、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。東京 2020 ゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）、かつ、東京 2020 オリンピック聖火リレーのサポーターパートナーである当社は、燃料供給を通じて大会および聖火リレーに貢献するとともに、SSを通じて全国を盛り上げていく様々な企画を展開してまいります。

5. 最後に

2020年は、完全にひとつになったENEOSのSSネットワークとして初めて迎える年になります。そして、SSの皆様が新しいユニフォームに袖を通していただき、当社自身も新しい社名を名乗ることで新生「チームENEOS」が新たな門出を迎える年になります。まさに、「新しい命が生まれ繁栄する」という意味を持つ子年に相応しい、新たな、そして大きな一歩を踏み出す年になります。

この新たな一歩を全国の特約店の皆様と共に踏み出すことができ、大変うれしく、また心強く感じます。本年も、これまで以上に強固な信頼関係とパートナーシップを育ませていただきたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上

JXTGは、社名もENEOSへ！

※ 2020年6月に開催予定の定時株主総会で定款変更が承認されることを条件に、同日日付で変更いたします。